

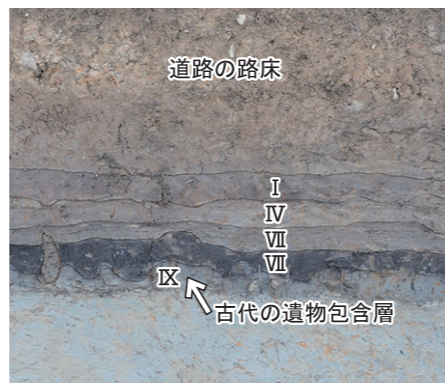
令和4年度調査の概要

ほ場整備事業のうち排水管敷設部分の3路線、約3,000㎡について発掘調査を行っています。いずれの路線も東西に長く調査区を設定していますが、遺構や遺物が特に多く検出されているのは、調査区中央の範囲です。遺構を確認できる面(昔の人々が生活していた面)は標高1.5メートル前後で、調査区西側ほど深くなっていきます。

現在上層の調査を行っています。上層は奈良・平安時代の遺跡です。出土した土器から類推すると8世紀から9世紀初頭に営まれた遺跡と考えられます。試し掘り調査の際には、下層から古墳時代後期の遺物がまとまって出土しています。上層調査が終了後、下層の調査を行う予定です。

基本層序

茶院A遺跡では、遺跡のほとんどのところで黒褐色粘土層(VII層)が確認できます。VII層からは平安時代以前の遺物しか出土しないため、この層より下層にある遺構を古代(8世紀・9世紀)のものとして推定しています。



基本層序

3区

今回見学いただく場所です。打ち込み式とみられる柱や、^{たてあなしょうどこう} 竪穴状土坑のほか並行して走る複数の溝がみついています。調査区の幅が狭いため、柱のつながりから建物規模を推定することができませんが、1~3区と試掘でも複数の柱が見つまっていることから、集落が広い範囲で存在していたと推定できます。



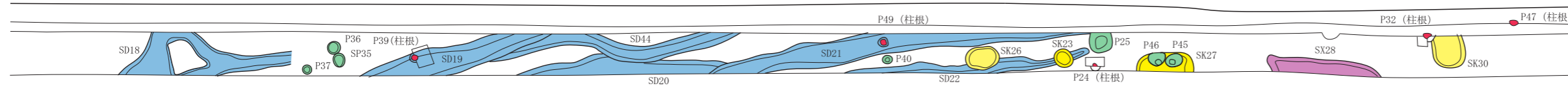
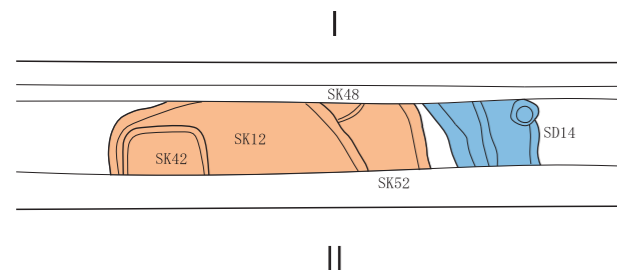
P47 柱根



P39 柱根



溝群 (SD19 ~ 44)



1区

調査区東側で幅20mの自然流路(かつての川)がみついています。この川はVII層下から掘り込まれ、砂や腐植土で埋まっていますが、埋土には古代の土器が多く含まれていました。「宅」と書かれた墨書土器2点もこの自然流路から出土しています。



木柱出土状況



「宅」墨書土器出土状況

2区

溝や土坑がみついています。出土遺物の中には、カマドの支脚とされる土製品がありました。

また、溝SD2から珠洲焼の鉢が1点出土しています。中世の遺物は今年度調査では現在のところこの1点のみです。



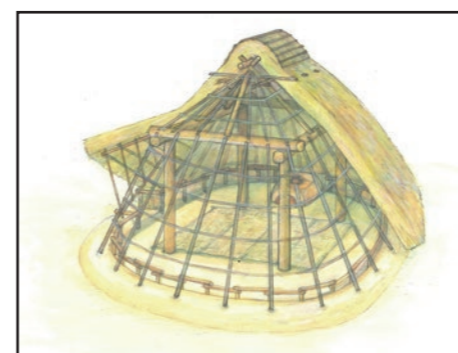
2区完掘状況



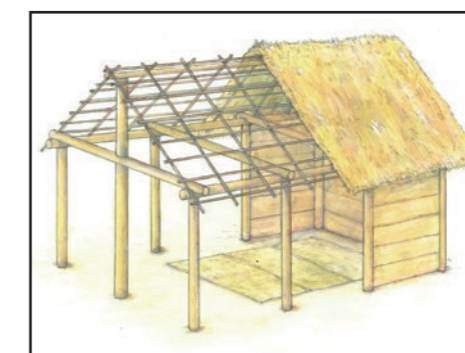
SD2 出土珠洲焼鉢



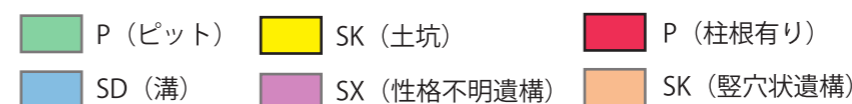
2区完掘状況



竪穴住居(再現イラスト)



掘立柱建物(再現イラスト)



竪穴状遺構